

2020年 新型コロナウイルス対策  
今は公園に来るよりも、身の回りで自然観察しましょう！

# 散歩 & 自然観察のススメ

## 2020春

奥只見レクリエーション都市公園  
指定管理者むつみグループ  
総括管理責任者 藤塚 治義  
1級ビオトープ計画管理士

### 【散歩 & 自然観察のススメ1】ザゼンソウ 2020/04/02

響きの森公園と八色の森公園の中程にある魚沼市の貴重な自然 原虫野地域です。ザゼンソウ群落とミズバショウ群落です。

湿地は足元が悪いので観察にはお気をつけください。貴重な植生です。踏みつけなどしないように道路からの観察をおすすめします。

(当たり前ですけど、盗掘などしたら処罰があります。)





## 【散歩&自然観察のススメ2】セイヨウタンポポ 2020/04/03

奥レクでも園路沿いにタンポポが咲きました。公園の園路で見られるタンポポはセイヨウタンポポです。

新潟県にもとからある在来のタンポポはエゾタンポポです。エゾタンポポは八色の森では見かけませんが、他の公園だと比較的山地よりのところにたまにあります。

セイヨウタンポポは3倍体で自家受精して種をつけます。踏みつけにも強く、日当たりのよい場所が大好きです。公園内で増えるわけです。

セイヨウタンポポの花は春だけでなく、これからポツポツと冬まで開花が続きます。



小さな花が集まっています。頭状花序といいます。



これが花です！

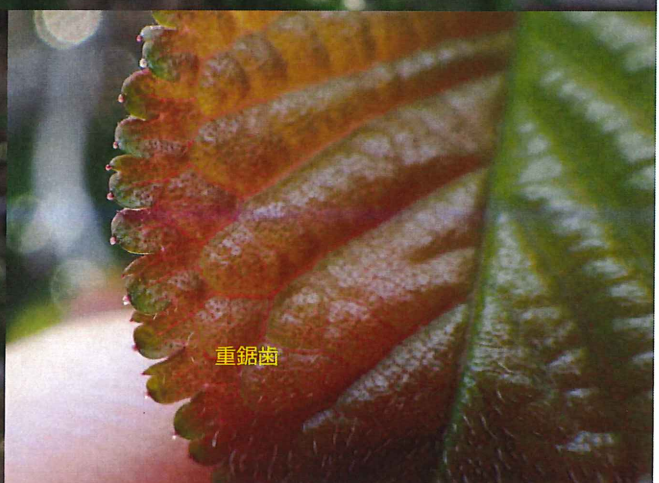
冠毛（かんもう）  
実が熟すとこれが綿毛になります。

## 【散歩&自然観察のススメ3】オクチョウジザクラ 2020/04/03

散歩しながら身近な自然観察を楽しみましょう。

魚沼地域で雪解け頃、最初に咲く桜がこのオクチョウジザクラです。

花の形が、漢字の「丁」の形に見えることから、「丁字桜」チョウジザクラと言われるのですが、チョウジザクラは太平洋側に分布し、日本海側にはその変種のオクチョウジザクラが分布しています。桜の仲間では花がないと区別しにくいのですが、オクチョウジザクラは葉の縁が特徴的です。葉の縁のギザギザを鋸歯（きょし）といいます。オクチョウジザクラの鋸歯は二重になっています。M字型の切れ込みが繋がっていることがわかるかと思います。ぜひ実物でお確かめください。こういう形状を重鋸歯（じゅうきょし）といいます。この付近の桜の仲間では本種だけですので、花がなくても葉だけで区別できます。



重鋸歯





#### 【散歩&自然観察のススメ4】クマイザサ 2020/04/08

奥只見レクリエーション都市公園の付近にはいくつかの種類のササがあるのですが、最も普通に見られるのがクマイザサです。別名シナノザサとも言われ、信濃国（長野県）からつながる信濃川水系に広く分布しています。

クマがいるようなところにあるから熊居笹だ・・・というような説もありますが、この名前は葉の数からきています。この笹は成長すると葉が9枚付きます。それで「九枚笹」です。

クマイザサは「ちまき」にも利用されるので、しばしばチマキザサと混同されていますが、チマキザサは葉の裏に毛がありませんが、クマイザサは葉の裏に毛があります。

魚沼地域に普通にあるササです。散歩の途中で手にとって確認してみてください。



#### 【散歩&自然観察のススメ5】ヒメオドリコソウ 2020/04/08

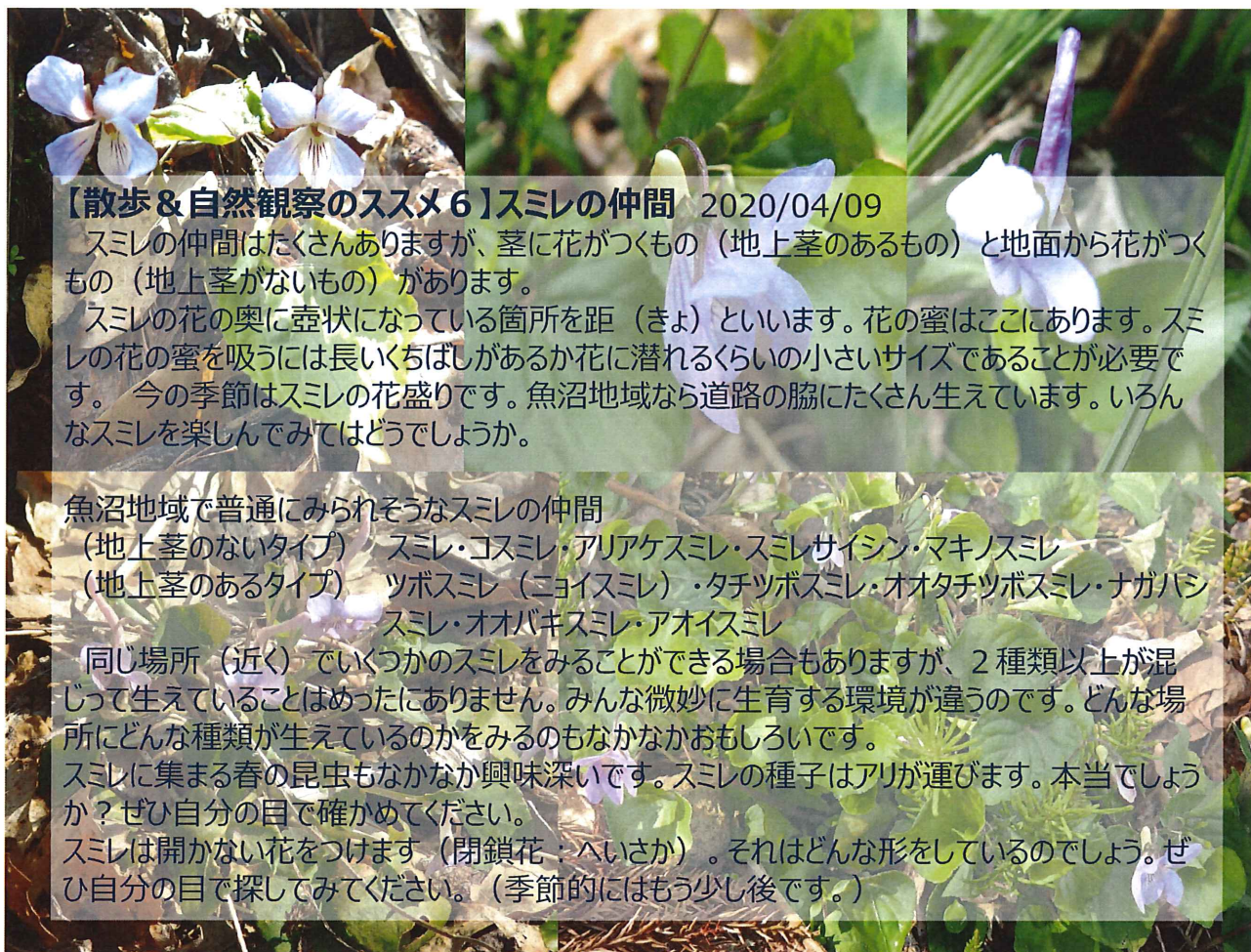
ヒメオドリコソウは外来種ですが、路傍で大変目立つ花です。

花も紫色ですが、葉や茎も紫に色づくことが多く、カーペット状に生えているのはなかなかよい眺めです。ヒメオドリコソウは肥料分が大好きです。窒素過多で他の草が生えられないような場所でも元気に生育します。

路傍でヒメオドリコソウが生えている場所をよく見てください。たいていは落ち葉や枯れ草がそこで溜まって肥やしになってしまったような場所だったりします。また、農道や畦畔に肥料をこぼすとそこだけヒメオドリコソウがまとまって生えることがよくあります。

毎年この季節になると、去年、穂肥をまく時こぼしたんだと自分の失敗を思い出すことがしばしばです。（筆者は農家なので。）





# 【散歩&自然観察のススメ6】スミレの仲間 2020/04/09

スミレの仲間はたくさんありますが、茎に花がつくもの（地上茎のあるもの）と地面から花がつくもの（地上茎がないもの）があります。

スミレの花の奥に壺状になっている箇所を距（きょ）といいます。花の蜜はここにありますが。スミレの花の蜜を吸うには長いくちばしがあるか花に潜れるくらいの小さいサイズであることが必要です。今の季節はスミレの花盛りです。魚沼地域なら道路の脇にたくさん生えています。いろんなスミレを楽しんでみてはどうでしょうか。

魚沼地域で普通にみられそうなスミレの仲間

（地上茎のないタイプ） スミレ・コスミレ・アリアケスミレ・スミレサイシン・マキノスミレ

（地上茎のあるタイプ） ツボスミレ（コヨイスミレ）・タチツボスミレ・オオタチツボスミレ・ナガハシスミレ・オオバキスミレ・アオイスミレ

同じ場所（近く）でいくつかのスミレをみることができる場合もありますが、2種類以上が混じって生えていることはめったにありません。みんな微妙に生育する環境が違うのです。どんな場所にどんな種類が生えているのかをみるのもなかなかおもしろいです。

スミレに集まる春の昆虫もなかなか興味深いです。スミレの種子はアリが運びます。本当でしょうか？ぜひ自分の目で確かめてください。

スミレは開かない花をつけます（閉鎖花：へいさか）。それはどんな形をしているのでしょうか。ぜひ自分の目で探してみてください。（季節的にはもう少し後です。）



# 【散歩&自然観察のススメ7】ヒメスミレ 2020/04/10

前の記事では山野のスミレを紹介しましたが、アスファルトやコンクリートの隙間にもスミレの仲間は咲いています。市街地の道路を歩きながらスミレを探してみるのも面白いかも。

写真のものはヒメスミレです。公園の舗装やコンクリートの割れ目でしばしば見られます。古い時代の外来種ではないかと言われています。



## 【散歩＆自然観察のススメ8】クスサンの繭 2020/04/10

木々の新葉が開く前に枝先に枯れ葉がついているものがしばしば見られます。枯れ葉が落ちなかったのかと思って近づいてみると、実はそれは昆虫の繭が枯れ葉をくっつけて隠れているものだったりします。

いろんな形で枝先で枯れ葉に隠れる昆虫はたくさんいるのですが、大きなものとしてはクスサンの繭があります。スケスケの俵状の繭は「透かし俵」とも言われます。蚕（カイコ）の仲間で、楠蚕（クスサン）の「サン」は蚕の意味です。

幼虫は長い毛があり、シラガタロウとも言われます。クリ、クヌギ、コナラ、サクラ、ウメ、イチョウ、クスノキなど様々な樹木の葉を食べるため、公園などでは害虫として嫌われています。秋に繭を作って成虫になるのですが、繭が丈夫なため冬も落ちずに今の季節に観察できます。手で破いてみてください。ものすごく丈夫なことがわかんと思います。

山地だけでなく、公園や街路樹などにもしばしば見られますので散歩しながら探してみてください。

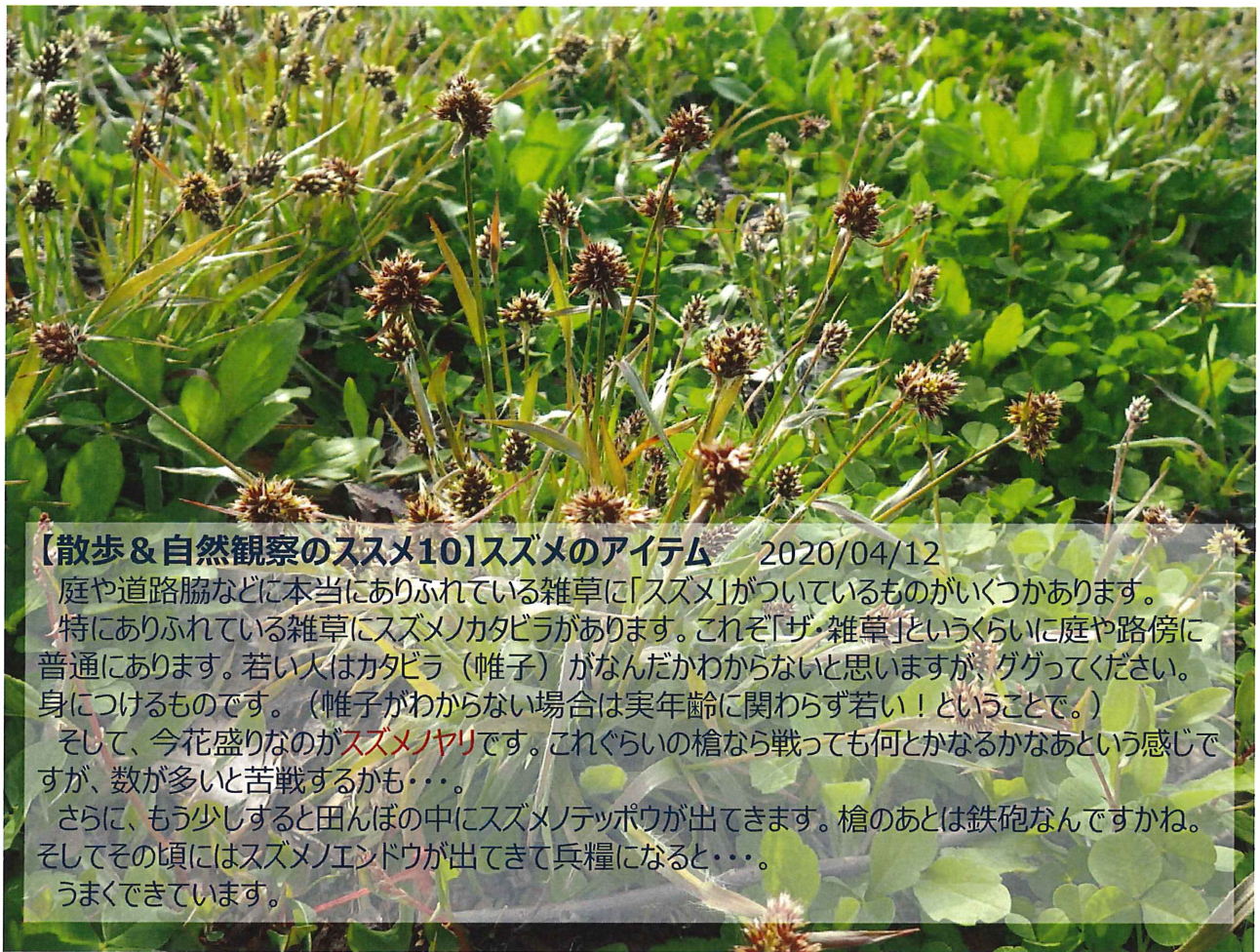


## 【散歩＆自然観察のススメ9】つくし 2020/04/12

つくしはスギナと同じ植物です。つくしを掘るとスギナと地下茎でつながっています。スギナはシダ植物ですが、ワラビやゼンマイと違っていわゆる葉っぱ状になっていません。それでいわゆるスギナのことを栄養茎（えいようけい）といい、胞子をつけるつくしのことを胞子茎（ほうしけい）といいます。種名としてはスギナなので、「つくしはスギナの胞子茎」ということになります。

スギナの胞子はどこにつかは何となくわかんと思うのですが、じっくりみてください。つくしの頭の部分は六角形に割れています。その六角形の裏側に胞子嚢がありそこに胞子がついています。スギナの胞子には弾糸という面白い構造があったりするのですが、それは高倍率のルーペがいりますので、また別の話にします。





【散歩&自然観察のスズメ10】スズメのアイテム 2020/04/12

庭や道路脇などに本当にありふれている雑草に「スズメ」がついているものがあります。特にありふれている雑草にスズメノカタビラがあります。これを「ザ・雑草」というくらいに庭や路傍に普通にあります。若い人はカタビラ（帷子）がなんだかわからないと思いますが、ググってください。身につけるものです。（帷子がわからない場合は実年齢に関わらず若い！ということです。）そして、今花盛りなのがスズメノヤリです。これぐらいの槍なら戦っても何とかなるかなあという感じがしますが、数が多いと苦戦するかも・・・。

さらに、もう少しすると田んぼの中にスズメノテッポウが出てきます。槍のあとは鉄砲なんですかね。そしてその頃にはスズメノエンドウが出てきて兵糧になると・・・。

うまくできています。



【散歩&自然観察のスズメ11】ハルジオン 2020/04/14

今の季節、路傍や庭にたくさん生えている北アメリカ原産のキク科の花です。もともとは園芸品だったのですが、これが花壇に生えているのは想像が付きません。

ハルジオン（別名ハルジョオン）です。

秋に芽生えて、根生葉だけで冬を越し、春になると茎が伸びて花が付きます。二年草（または、越年性1年草）と言われます。花が咲く前に蕾がうなだれるという特徴があります。

そっくりのものにヒメジョオンがありますが、ハルジオンは茎が中空（ストロー状）、ヒメジョオンは茎が詰まっています（中実といいます）。茎を切ってみればすぐに違いがわかります。また、ハルジオンは名前の通り春に咲きますが、ヒメジョオンは春から秋まで花をつけます。



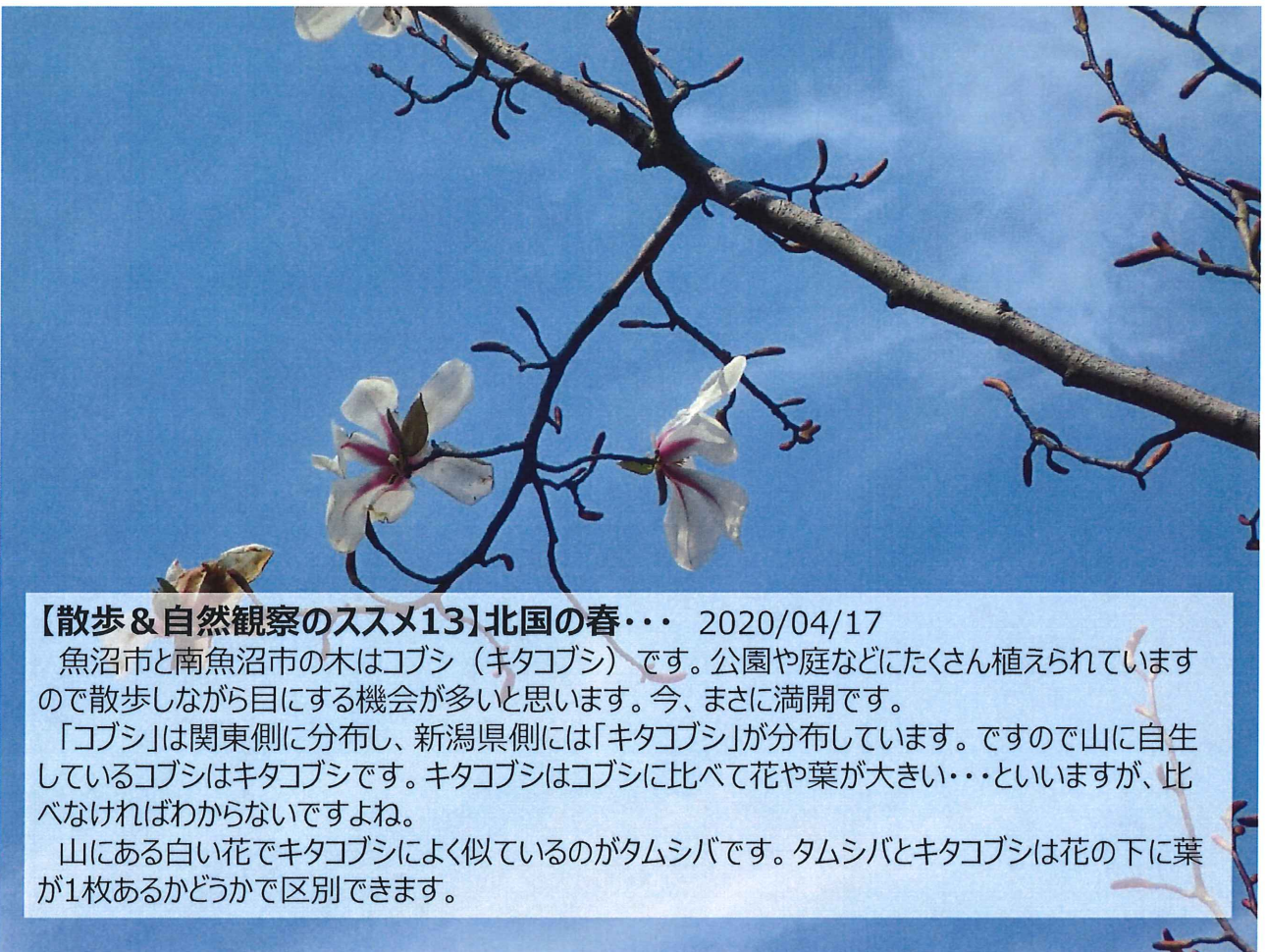
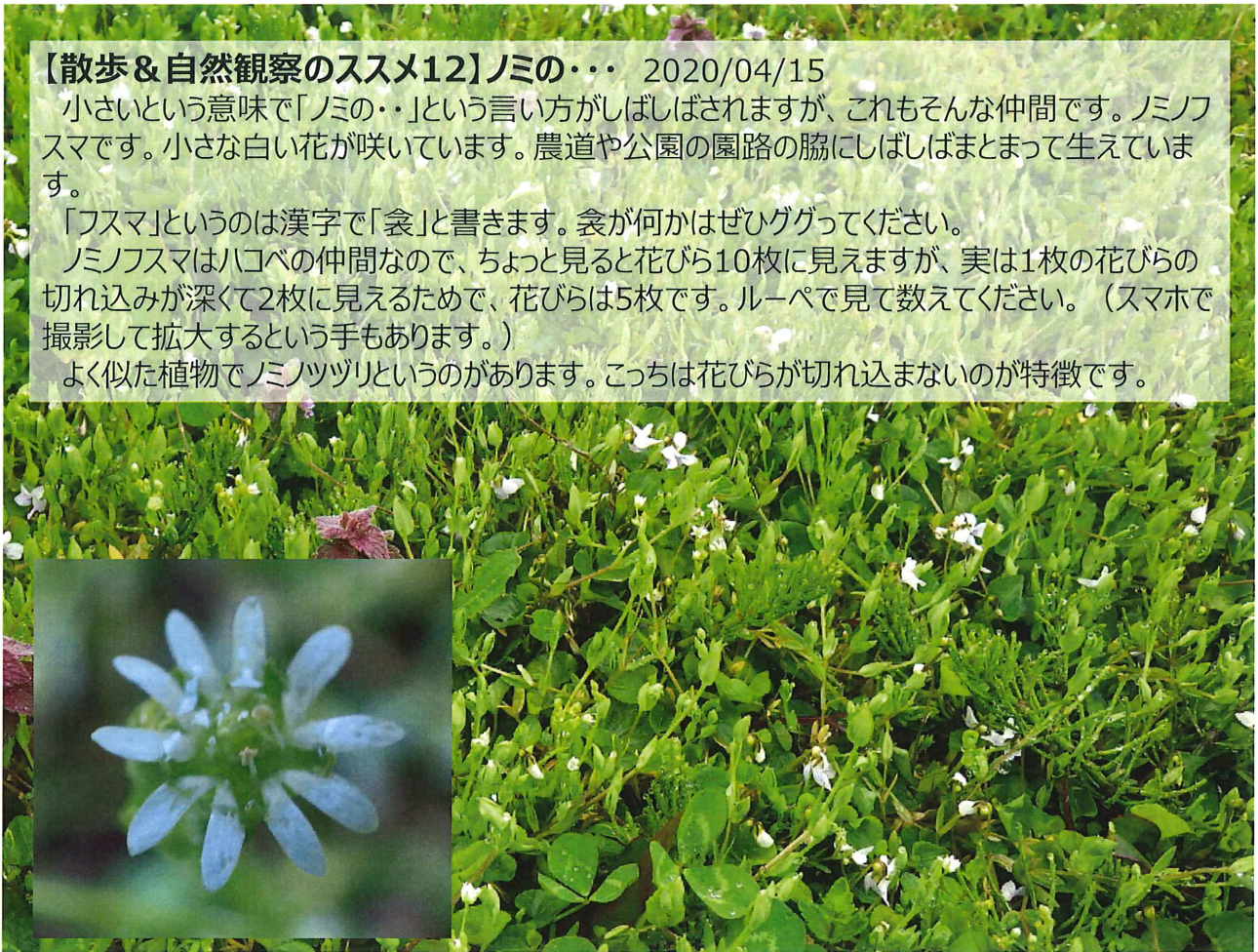
**【散歩&自然観察のススメ12】ノミの・・・ 2020/04/15**

小さいという意味で「ノミの・・・」という言い方がしばしばされますが、これもそんな仲間です。ノミノフスマです。小さな白い花が咲いています。農道や公園の園路の脇にしばしばまとまって生えています。

「フスマ」というのは漢字で「衾」と書きます。衾が何かはぜひググってください。

ノミノフスマはハコベの仲間なので、ちょっと見ると花びら10枚に見えますが、実は1枚の花びらの切れ込みが深くて2枚に見えるためで、花びらは5枚です。ルーペで見て数えてください。（スマホで撮影して拡大するという手もあります。）

よく似た植物でノミノツツリというのがあります。こっちは花びらが切れ込まないのが特徴です。



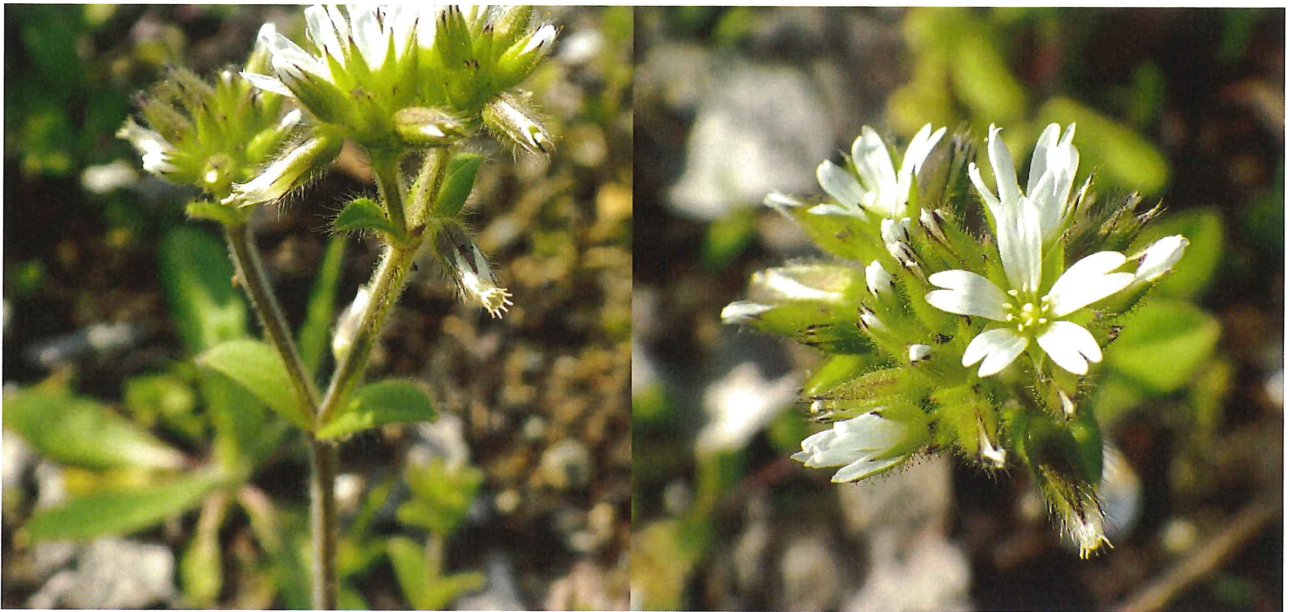
**【散歩&自然観察のススメ13】北国の春・・・ 2020/04/17**

魚沼市と南魚沼市の木はコブシ（キタコブシ）です。公園や庭などにたくさん植えられていますので散歩しながら目にする機会が多いと思います。今、まさに満開です。

「コブシ」は関東側に分布し、新潟県側には「キタコブシ」が分布しています。ですので山に自生しているコブシはキタコブシです。キタコブシはコブシに比べて花や葉が大きい・・・といいますが、比べなければわからないですね。

山にある白い花でキタコブシによく似ているのがタムシバです。タムシバとキタコブシは花の下に葉が1枚あるかどうかで区別できます。





【散歩＆自然観察のススメ14】ミナグサはどこに行った？ 2020/04/18

今の季節、本当にどこにでもある、ありふれた雑草のひとつオランダミナグサです。街路にも農道にも、公園にも、畑にも、どこに行っても見られます。オランダから来たのかどうかは不明ですが、ヨーロッパ原産の外来種です。

私（50代後半）の記憶では平野部の農地で、昭和50年代くらいまでは在来種のミナグサが半々だったように思うのですが、今では在来種ミナグサはまず見ることはできません。

ミナグサは、オランダミナグサに比べると毛が少し少なく、茎が紫色になります。ぜひ自宅の周りを散歩しながら、在来種ミナグサを探してください。

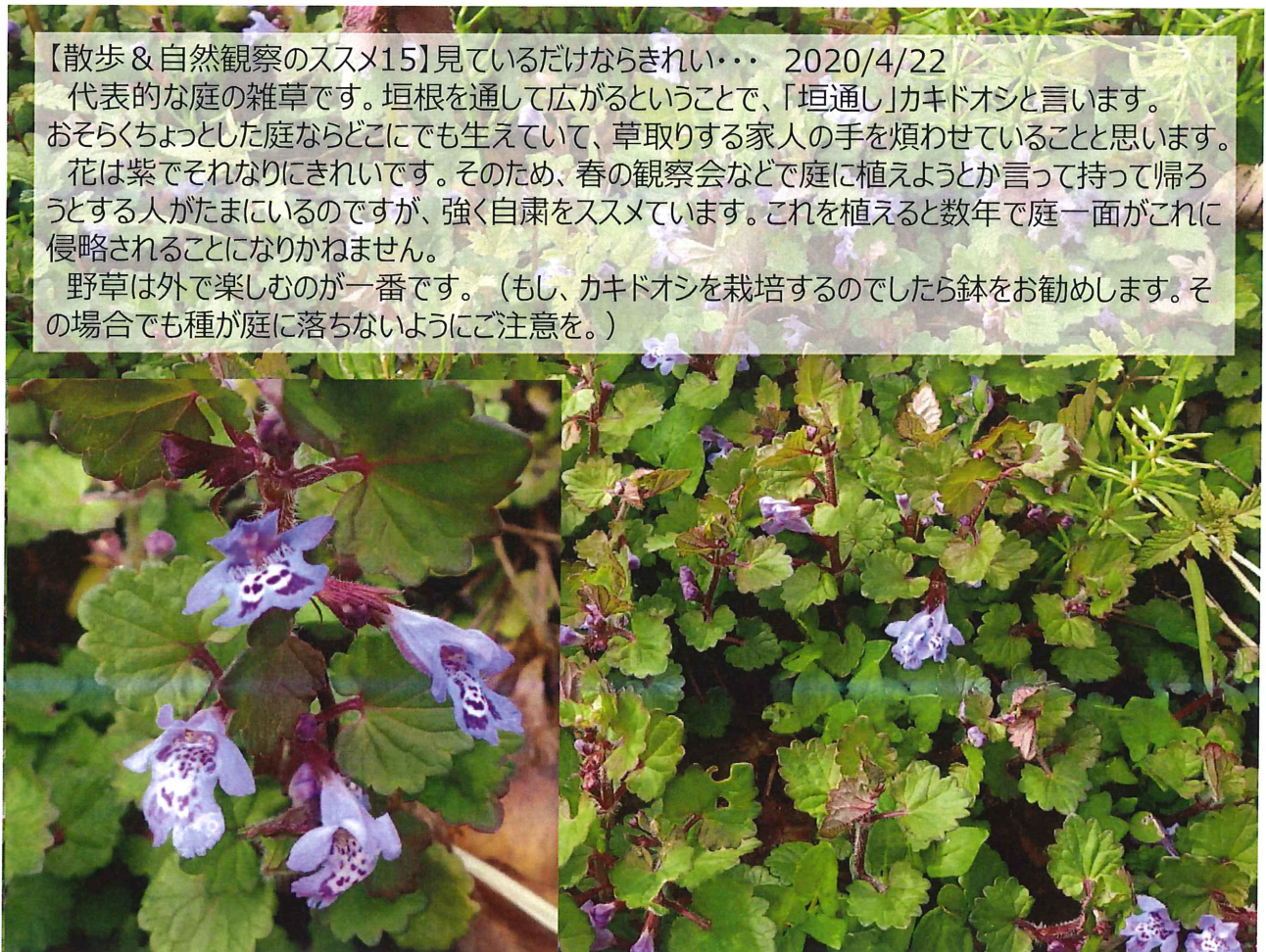
見つけたら教えて下さい。写真を撮りに行きます！

【散歩＆自然観察のススメ15】見ているだけならきれい・・・ 2020/4/22

代表的な庭の雑草です。垣根を通して広がるということで、「垣通し」カキドオシと言います。おそらくちょっとした庭ならどこにでも生えていて、草取りする家人の手を煩わせていることと思います。

花は紫でそれなりにきれいです。そのため、春の観察会などで庭に植えようとか言って持って帰ろうとする人がたまにいますが、強く自粛をススメています。これを植えると数年で庭一面がこれに侵略されることになりかねません。

野草は外で楽しむのが一番です。（もし、カキドオシを栽培するのでしたら鉢をお勧めします。その場合でも種が庭に落ちないようにご注意ください。）





【散歩&自然観察のススメ16】ちょっと難しいかも 2020/04/23

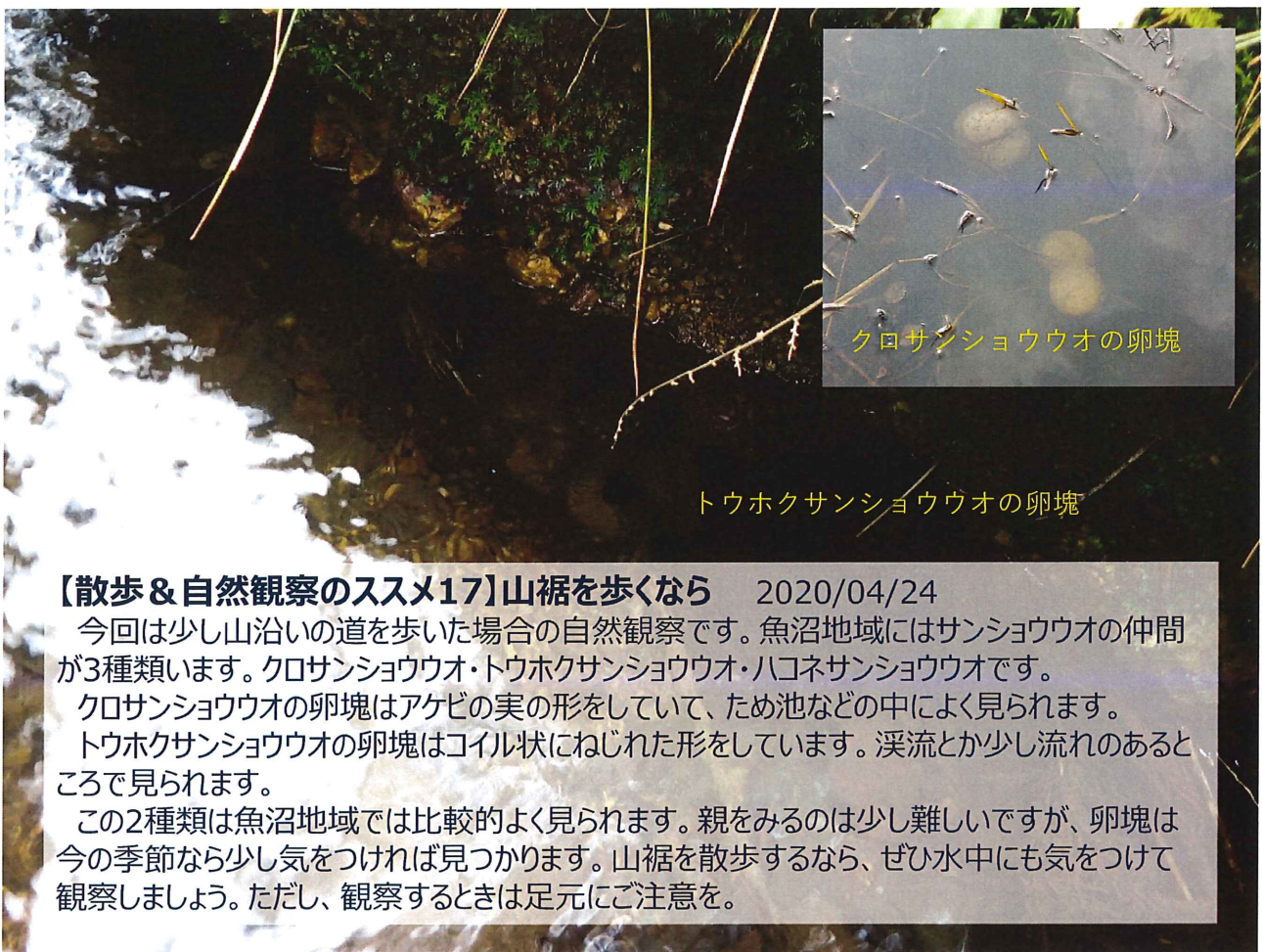
ゼンソウの仲間ですが、花が小さく目立たないヒメゼンソウです。これは牧野博士が発見するまでオオウバユリと混同されて区別されていなかったといいます。実際、オオウバユリの葉っぱの出だしとそっくりです。

実は、魚沼の山裾には普通にあったりします。今の季節は実がありますが、これは昨年の花についたものです。

ヒメゼンソウと花茎の立つ前のオオウバユリが区別できるようになったらプロのレベルです。



果実が脇に出ます。



クロサンショウウオの卵塊

トウホクサンショウウオの卵塊

【散歩&自然観察のススメ17】山裾を歩いたら 2020/04/24

今回は少し山沿いの道を歩いた場合の自然観察です。魚沼地域にはサンショウウオの仲間が3種類います。クロサンショウウオ・トウホクサンショウウオ・ハコネサンショウウオです。

クロサンショウウオの卵塊はアケビの実の形をしていて、ため池などの中によく見られます。

トウホクサンショウウオの卵塊はコイル状にねじれた形をしています。溪流とか少し流れのあるところで見られます。

この2種類は魚沼地域では比較的によく見られます。親をみるのは少し難しいですが、卵塊は今の季節なら少し気をつければ見つかります。山裾を散歩するなら、ぜひ水中にも気をつけて観察しましょう。ただし、観察するときは足元にご注意を。



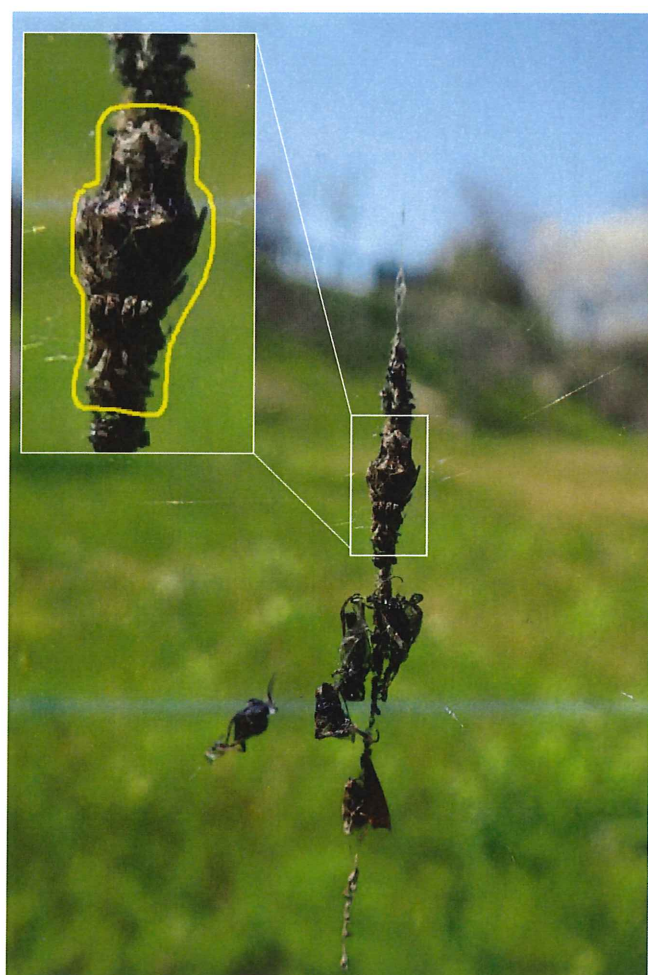


**【散歩&自然観察のススメ18】別名「地獄の釜の蓋」 2020/04/25**

畑や路傍に生える雑草キランソウです。別名の由来は鍋蓋のように平べったく生える、その生え方によるらしいのですが、それがなぜ「地獄の釜」なのかについてはよくわかりません。諸説ありますが、どれが本当かわからないので、興味がある方はぜひ調べて教えてください。

キランソウはシソ科の植物です。シソ科の植物は普通茎が四角いのですが、キランソウの茎は丸いです。シソ科の中ではちょっと変わっています。

園芸品のアジュガの仲間です。（園芸品のアジュガはキランソウの仲間ですというのが正しい表現ですね。）



**【散歩&自然観察のススメ19】**

**廃棄物の有効利用 2020/04/27**

野外を歩いているとクモの巣というのはどこにでもあるものです。その巣の真ん中くらいに細長くゴミがついている巣があります。

実はそこにクモが隠れています。ゴミグモの仲間です。ゴミグモの仲間も種類がたくさんあるので詳しい種名は勉強不足です。ぜひご存知の方は教えて下さい。

拡大した写真みてください。クモがいるのがわかるでしょうか。

クモは益虫です。見た目から嫌われることが多いですが、よく見ればなかなかかわいい生き物です。

家の中にもいろんなクモがいます。クモの巣は掃除の対象ですが、人間に害はまずないので観察してみるのもいいのではないのでしょうか。





**【散歩＆自然観察のススメ20】大切なことなので2回言います 2020/04/29**

タンポポは既に紹介しましたが、観察にいい季節なのでもう1度紹介します。

タンポポは花が咲いて受粉すると、いったん寝ます。そして、実が成熟すると再び立ち上がって、花より高い位置に実が付きます。ですので、花と実が両方ある株は、花よりも実が高い位置にあるはずです。（小学生はほとんど知っています。国語！で習うようです。）

植物の場合、寝る、起きるといっても筋肉で動くわけではないので、実は茎の細胞が成長して位置を変えるのです。茎の片側だけが成長して伸びると反対側に寝ます。次に反対側が成長すれば起き上がることができます。そして茎が成長した分だけ長くなっていますから花より高い位置に来ます。うまくできています。

寝る子は育つ・・・というわけでもないでしょうけど。寝て起きたら成長できている、なんて言うのはちょっとうらやましいかも。



**【散歩＆自然観察のススメ21】2度めの紹介 2020/04/29**

ヒメオドリコソウを摘んで茎を見ましょう。ヒメオドリコソウは2度めの紹介です。

シソ科の植物の茎は四角です。 四角い茎が全部シソ科ではありませんが、シソ科の植物の茎はほとんど四角です。 例外もあります。それはこの前紹介しました。

何気ない植物でもよく見ると面白いです。 庭の雑草を観察しましょう。

きっとそこには知らなかった世界が・・・（大げさ？）





### 【散歩&自然観察のススメ22】ちょっと注意を 2020/05/01

このところ急激に暖かくなってきています。野外を散策するにはよいのですが、熱中症に気をつけましょう。十分な休憩と水分・塩分の補給をしましょう。

暖かくなるといろんな虫が動きだしますが、やはりこんなのがたくさん飛び始めます。

アシナガバチが巣を作り始めています。当然、これは女王蜂です。最初は女王陛下が一人（1匹）で巣を作り出し、子育てをして、群れを作ります。

野外の散策の際にはくれぐれも蜂に注意しましょう。藪の中にいきなり手を入れたりしないようにご注意ください！



### 【散歩&自然観察のススメ23】前と後ろを入れ替える 2020/05/02

昔、ビニールがない時代には雨具はスゲを使って作っていました。その代表的なものが菅笠（すげがさ）です。その笠を作るためのスゲが、これ「カサスゲ」です。

スゲガサをつくるためのカサスゲ。もちろん、他のものも作ったでしょうけれど。

昔は栽培もされたようですが、今では水路や休耕田の雑草になっています。山沿いを散歩されると水路や田んぼまわりに普通にあります。今はちょうど花盛りです。

観察の際は足元注意です。





### 【散歩&自然観察のススメ24】誰と戦う？ 2020/05/06

GWもまもなく終わりです。新潟県の平野部では着々と田植えが進められています。この季節に水田雑草として有名な草がこれです。

スズメノテッポウ この草は今満開ですが、昔のように田植えが6月くらいだったら、その頃にはそれほど邪魔にならなくなっているはずのものです。農作業が全体的に早くなったためにやっかいな雑草として認識されるようになったようです。（余談ですが、「田植え」は夏の季語です。）

それにしても、スズメノヤリ、スズメノテッポウと揃っていますが、槍や鉄砲をもたせていったいスズメに何と戦わせようというのでしょうか。



### 【散歩&自然観察のススメ25】

イヌも歩けばボウにあたる 2020/05/06

田んぼの周辺を歩いていると、たまに普通のスギナよりもやや色の濃い緑で大型のスギナがあります。そして、よく見るとツクシの頭がスギナの上に付いていたりします。

イヌスギナです。たいていの場合、スギナに混じっているもので気が付かないまま見過ごされている植物です。平野部では多いのですが、山沿いとか魚沼ではあまり見かけません。どこにでもあるスギナですが、散歩のついでにスギナの中にイヌスギナが混じっていないか探してみてもいかがでしょうか。

ちなみに奥レクの中では見たことがありません。公園内には生育していないようです。







**【散歩&自然観察のススメ26】オオ・タチまわり 2020/05/07**

春の紫のきれいな花として紹介されることが多いオオイヌノフグリですが、花が終わると実が付きます。その実の形が名前の由来になっています。同じ仲間では花が小さくてかわいらしいものがタチイヌノフグリです。この「タチ」というのは実が立っているからだと思います。

本当の名前の由来は在来種より大きいから「オオ・」なのですが、在来種イヌノフグリは絶滅危惧種ですから、まず見ることはできません。「犬のふぐり」が何なのかは実をみて想像してください。ほとんどの方は知っていると思いますけど・・・。



**【散歩&自然観察のススメ27】光あれ！ 2020/05/08**

魚沼地域の山に普通に生えているコナラの芽生えです。今の季節、昨年落ちたどんぐりから芽がでています。ネズミやリスが多いとどんぐりの多くは彼らに回収されてしまうのですが、回収されずに残ったどんぐりからは根がでて、芽が出て、新しいコナラが生育を始めます。

コナラの発芽には光が必要です。コナラのどんぐりは地中に埋めてしまうと発芽率がぐっと下がります。山裾や林道を散策されるとき、コナラの芽生えなどを探してみてもいいかもしれません。





## 【散歩＆自然観察のススメ28】あま〜い！ かな？ 2020/05/09

ソメイヨシノもすっかり葉桜となりました。ソメイヨシノに実がなることは少ないのですが、それでもよく見るとところどころに実が付いています。成熟するとそれなりに美味しそうに見えますが、残念ながらその期待は裏切られると思います。勇気があったら試してみてください。（お腹を壊しても責任は取れません！）

今日の話題は実ではありません。葉です。サクラの葉をよくみると葉身（ようしん：葉の広がっている部分）の付け根に2つ丸いものが付いています（落ちているものや、無いものもあります）。これは蜜腺といいます。漢字のごとく、ここから蜜を出します。

普通、蜜といえば花にあるものですが、なぜか葉の一部に蜜を出しているのです。

なぜ葉から蜜を出すのかの本当の理由はわかりませんが、蜜を出すことでアリを集めていると考えられています。樹木の幹をアリが動き回ることによって他の害虫が来にくくなるのだろうとされています。

葉に蜜腺を持っている植物はサクラ以外にもかなりあります。散歩しながら木の葉をみて、蜜腺があるかどうか、そして、本当にそこから蜜が出ているのかどうか、確かめてみるのはどうでしょうか。

（※ 舐めてみるのが一番簡単な調査方法ですが、くれぐれもお腹を壊さないようにお願いします。あくまで自己責任で！！！！）



## 【散歩＆自然観察のススメ29】

今回は葉を観察しましょう。

2020/05/10

葉の形は様々です。サクラのように単純な1枚の葉の場合は単葉（たんよう）といいます。それに対して1枚の葉が切れ込んで何枚かに分かれているものを複葉（ふくよう）といいます。代表的なものはトチノキやカラスノエンドウのようなものです。

散歩しながらいろんな植物の葉の形を観察するのも面白いのではないのでしょうか。

葉の形については、いずれ公園で観察会を開催したいのですが、コロナ禍が収まるまでは難しそうです。

今回の解説は写真ごとにいれてあります。写真を拡大してご覧ください。

※facebookでご確認ください。





### 【散歩&自然観察のスヌメ30】大相撲 奥レク場所 2020/05/11

動画をあげましたが、今の季節手すりの上では様々な虫たちがみられます。それは「手すりの虫観察ガイド」という図鑑になって紹介されているほどです。

というわけで、散歩のときは手すりを眺めてほしいのですが、天気がよいと多くのドラマがそこにみられます。

今回紹介したのは、一番普通にみられるハエトリグモの戦いです。どこかの地方ではこのハエトリグモを戦わせる伝統行事があるとか・・・。

たまたま公園で撮影しましたが、このクモはどこにでもいます。ぜひご自宅の、または近所の手すりをご覧ください。



### 【散歩&自然観察のスヌメ31】ピカピカ 2020/05/14

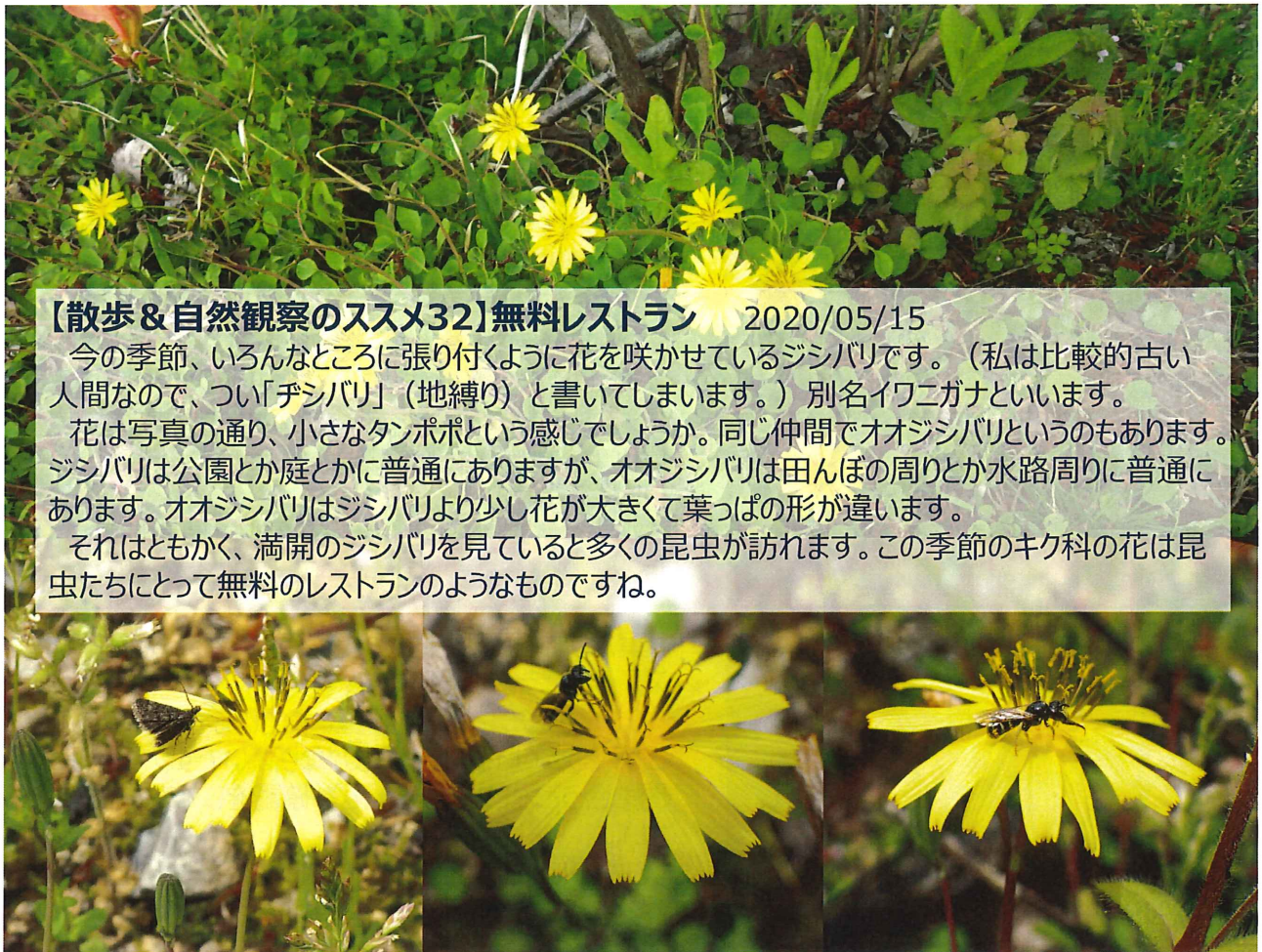
今の季節、土手や田んぼの周りで黄色い花がたくさん咲いています。中でも、花びらがピカピカしているものがあります。ウマノアシガタ、別名キンポウゲです。この花弁に光沢が強いのはこの植物の仲間の特徴です。

ウマノアシガタが図鑑などに載っている標準和名なのですが、別名のキンポウゲのほうが何となく素敵な花のような気がします。キンポウゲの仲間は花びらに光沢をもつものが多いのですが、これは花弁にデンプン粒を含み、クチクラが表面にあるからだといひます。私も勉強が足りなくて、この理由でなぜ光沢があるのかよく理解できていません。とにかく、ピカピカしていたらウマノアシガタの可能性大です。

(キツネノボタン、ケキツネノボタンもピカピカですが、花びらが小さいです。)

根生葉の形が「馬の脚」に似ているというのですが、馬の脚をよく知らないのどこをどう見たら馬の脚になるのか不明です。ぜひ馬の脚に詳しい方に教えていただきたいと思います。





### 【散歩&自然観察のススメ32】無料レストラン 2020/05/15

今の季節、いろんなところに張り付くように花を咲かせているジシバリです。（私は比較的古い人間なので、つい「ヂシバリ」（地縛り）と書いてしまいます。）別名イワニガナといいます。

花は写真の通り、小さなタンポポという感じでしょうか。同じ仲間でおオジシバリというのもあります。ジシバリは公園とか庭とかに普通にありますが、おオジシバリは田んぼの周りとか水路周りに普通にあります。おオジシバリはジシバリより少し花が大きくて葉っぱの形が違います。

それはともかく、満開のジシバリを見ていると多くの昆虫が訪れます。この季節のキク科の花は昆虫たちにとって無料のレストランのようなものですね。



### 【散歩&自然観察のススメ33】ピカピカ2 2020/05/21

公園に来る代わりに家の周囲で散歩しながら自然観察でも、というこの企画もそろそろ終了とさせていただき・・・と思ったのですが、状況が変わっても、皆様のご自宅の周りの自然を散歩しながら見てもらうことはよいことだと思いますので、紹介の舞台を農道や山麓から、たまに公園内を交えながら引き続き紹介させていただきたいと思います。

魚沼の普通の雑草です。響きの森公園の里山エリアで撮影しました。少し前に花びらピカピカのウマノアシガタを紹介しましたが、その仲間と同じように花びらピカピカのケツネノボタンです。

似たような仲間で、ケツネノボタンがありますが、「ケ」とついていてはあっても、この種は毛深いです。毛深いかどうかは比較しないと判断できにくいですが、実の形をみると区別ができます。「ケ」のほうは実の先が尖っています。「ケ」がないほうは実の先がくると曲がっています。魚沼には両方ありますので、ぜひ探して比較してみてください。





### 【散歩&自然観察のススメ34】雪国

2020/05/21

奥只見地域（魚沼・南魚沼）は自然観察の適地です。まず身の回りを散歩しましょう、ついでに自然観察でも・・・という企画の第34弾です。

ギフチョウの食草としてコシノカンアオイは有名ですが、魚沼・南魚沼・湯沢あたりにはコシノカンアオイだけでなく、ユキグニカンアオイがあります。ユキグニカンアオイは正式に記載されたのが2000年頃なので新しい図鑑には載っているのですが、古い図鑑には載っていません。

この写真は根小屋の公園の隣の山で撮影しました。

葉だけだと区別が付きませんが、花をみるとサイズが全く違うので一目瞭然です。

コシノカンアオイとして記録されている中にユキグニが混じっている可能性はかなり高いです。今なら間に合うと思いますので、ぜひ確認してみてください。

ちなみにどちらも貴重種です。



### 【散歩&自然観察のススメ35】恐ろしい花

2020/05/21

大湯公園です。山沿いにマムシグサ（コウライテンナンショウ）が何株か生えていました。サトイモ科の仲間は面白い形の花をつけます。基本的にはミズバショウやザゼンソウと同じ形をしています。

小さな花をたくさんつけた柱状のもの（これを肉穂花序（にくすいかじょ）といいます。）が火炎苞（かえんほう）と言われる葉のようなものに囲われています。

この火炎苞の中を覗くと・・・

雄花をつけた苞の中に入った虫はそこでウロウロとしながら花粉をつけ、その後雌花をつけた苞の中に入ってそこでウロウロして受粉させることになります。

雄花に入った虫は粉だらけになって苞を出てくるのですが、雌花に入った虫はなかなか出られないといいます。その結果、雌花の苞の中には取り殺された虫の死骸が・・・

大きな虫なら雄花でも出られずに死んでしまう場合もあるでしょうけど、雄花は虫に出てもらわなければ花粉を運んでもらえません。しかし、雌花は虫を出て行かせる必要がありません。

花の中を覗いてみてください。ホラ話か、ホラーな話か、ぜひお確かめを。







**【散歩&自然観察のススメ36】恐ろしい花（経済的に） 2020/05/22**

魚野川およびその支川の河川敷では特に注意です。

今の季節、河川敷に青い花が咲いています。これは特定外来生物のオオカワヂシャです。この写真のものはまだ小さいですが大きくなると1m以上の高さに成長します。

特定外来生物は「外来生物法」という法律で取り扱いにいろいろと罰則があります。許可なく栽培したり、持ち運んだり、人にあげたりすると最大で300万円の罰金、または懲役1年以下となっています。法人の場合は最大で1億円の罰金があります。（詳細は環境省のHPをご覧ください。）

きれいな花だと思って持ち帰ったりしないようにご注意ください。（持ち運んで、他の場所で捨てても法律に触れます。）

魚沼・南魚沼で、比較的好く見られる特定外来生物は、魚類ではブラックバス、ブルーギル、両生類ではウシガエル（食用ガエル）、植物ではオオキンケイギク、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャ、アレチウリです。これらの生物の取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

河川工事などで工事現場にこれがある場合は対策が必要となる場合があります。法人としての罰金は大きいのでご注意ください！



**【散歩&自然観察のススメ37】ピカピカ2の補足 2020/05/31**

「ススメ33（ピカピカ2）」では、ケキツネノボタンを紹介しました。

そっくりな植物で「キツネノボタン」というのがあるという紹介はしたのですが、実物の写真がなかったのでわかりにくいと思ひまして、写真を撮影してきました。

キツネノボタンは実の先がくるっと曲がっています。ちょっとピントがボケていてすみません。

ケキツネノボタンの実は「ススメ33」をご覧ください。

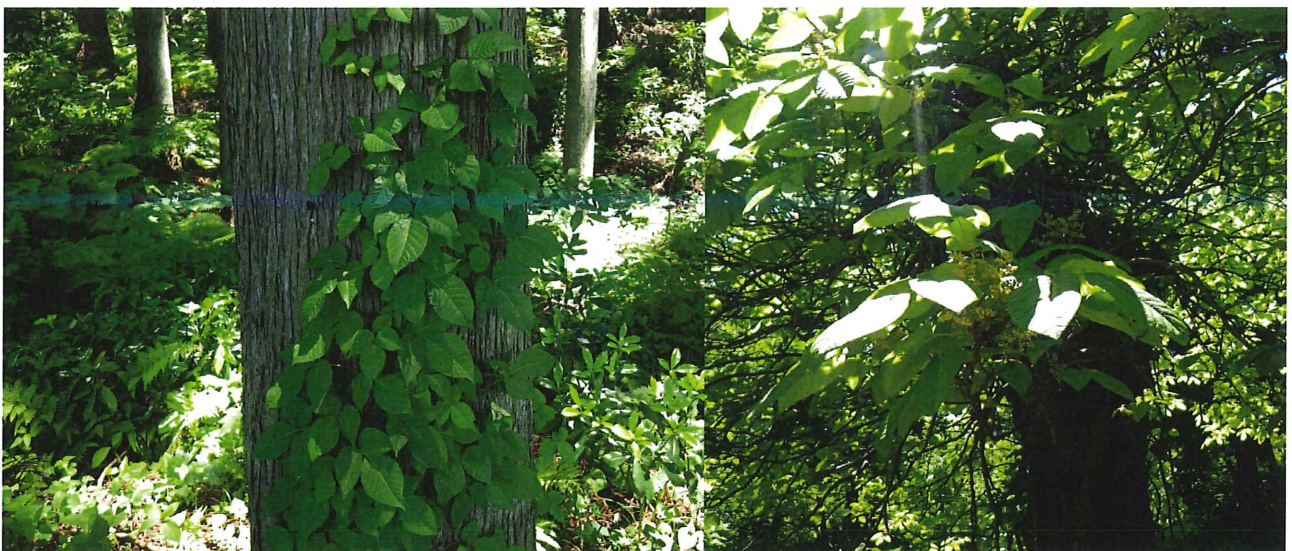




### 【散歩＆自然観察のススメ38】蝶の脚は何本？ 2020/05/31

普通、昆虫の脚の数は6本です。昆虫のことを六脚虫というくらい常識です。さて、この蝶、脚は何本でしょう？

いろいろと不思議なことはあるものです。どうなっているのか、ぜひ自分の目で確かめてください。



### 【散歩＆自然観察のススメ39】恐ろしい植物（身体的に） 2020/05/31

山野には触るとかぶれる植物というのがあります。大丈夫な人もたまにはいますが、普通の人はいいかぶれるのがウルシの仲間です。この付近にはウルシの仲間は3種類（ヤマウルシ、ツタウルシ、ヌルデ）あり、その中で一番強力なのが写真のツタウルシです。私はウルシにかぶれるので、ツタウルシの生えている木立に入るのはなかなか怖いです。

ヤマウルシはツタウルシに比べるとかなり弱く、ヌルデは私がかぶれません。「ウルシ」という種は漆器用に栽培されている樹種で普通の山にはありませんが、かつて漆器の産地だった場所の近くでは栽培されていたものが生き残っていたりします。

ツタウルシは三出複葉です。1枚の葉っぱが3枚に分かれています。葉が3枚に分かれているツタの仲間にご用心ください（類似種がありますが、とりあえず逃げておけば大丈夫です）。





#### 【散歩&自然観察のススメ40】共生か寄生か 2020/06/02

今の季節、公園や庭などに植えられているハルニレの葉に面白いものが見られます。これはハルニレの虫こぶ（ゴール）です。この中には虫の幼虫などが棲んでいます。

（植物はハルニレ、虫こぶの名前はハルニレハフクロフシ、作らせる虫はオカボノクロアブラムシ。まもなくアブラムシはこのゴールを出てイネ科植物に移動します。）

虫こぶは植物に昆虫（昆虫じゃない虫の場合もあります）が働きかけて作らせるものです。寄生といえは寄生なのでしょうが、毎年、これほど付いているということは、なにか植物の側にもいいことがあるのではなかろうかと思っています。

虫こぶはいろんなものがあります。散歩しながら、いろんな虫こぶを探してみてもどうでしょうか。



#### 【散歩&自然観察のススメ41】大型小型 2020/06/06

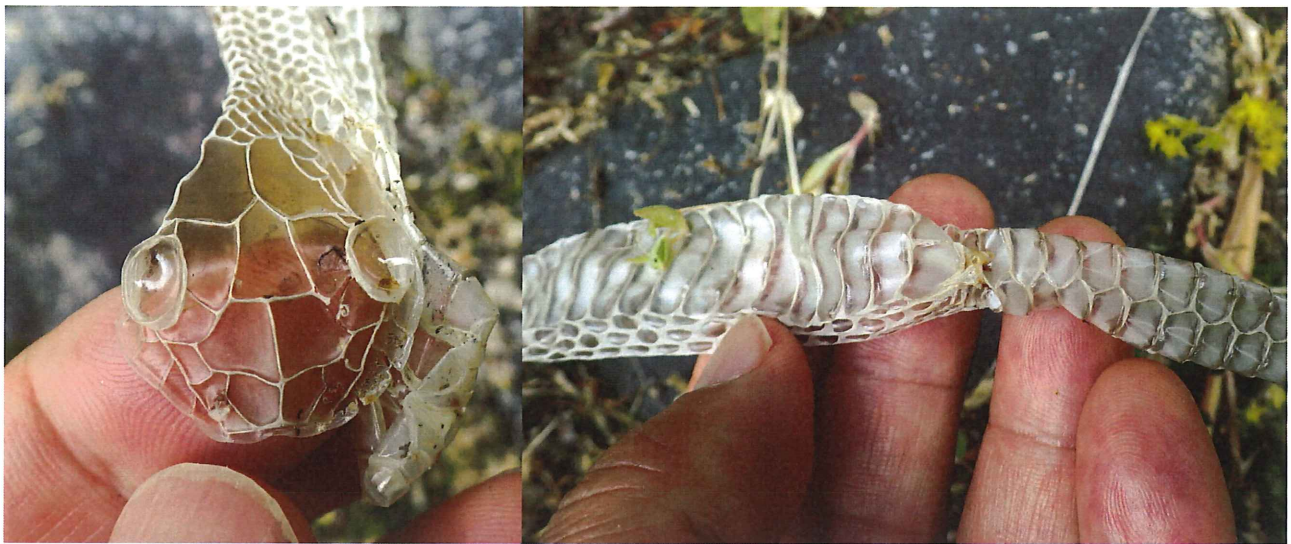
路傍などによくみられる雑草です。今の季節は、ギシギシによく間違えられるのですが、ギシギシの間はこれから花が咲いて実がつきますが、これはもう少し早く春から初夏くらいまでに実が付きます。もうそろそろ終わっているかもしれません。

スイバとヒメスイバです。大きさが全然違いますので、間違えることはそうそうないと思うのですが、識別点は葉の形（葉身の形）が違います。ヒメスイバは耳状のでっぱりがあります。

スイバは酸っぱい葉っぱの意味だといいますが、一部地域では山菜として食用になっているといえます。ヒメスイバは写真で分かる通り小さな植物です。人工的に裸地にしたようなところとか、路傍で造成したばかりのところなどによく生育します。

本当になにげない植物で、普通は見向きもされない草だと思いますが、こんな草でもどこに生えるのだろうかとか、いつくらいに花が咲くのだろうかとか、興味を持ってみるといろいろと面白いことがあつたりします。貴重な植物や、きれいな花などを愛でるのももちろん楽しいのですが、何気ない草、いわゆる雑草を眺めるのもそれなりに楽しいです。





### 【散歩&自然観察のススメ43】こいつは噛まない！ 2020/06/11

この季節に散歩していると、しばしばこいつに遭遇します。実体がある奴は少々危険ですが、こうなってしまうと、むしろ運がいい、お金がたまるかもしれません。

これはシマヘビの抜け殻です。皮になってしまうと種類はわかりにくいのですが、鱗の数（列数）が違うのでアオダイショウ（23列くらい）とシマヘビ（19列）の違いくらいはわかります。

脱皮したものを観察するといろいろなことがわかります。まず、蛇は脱皮するとき皮を裏返しにして脱ぐことがわかります。目や腹の出っ張っている部分が引っ込んでいます。

蛇の腹と尾の境目がわかります。蛇の腹は鱗が1枚ですが、尻尾は腹側の鱗が2列になっています。その境目にはお尻の穴（総排出腔）があります。

拾って財布に入れておけばお金が貯まるかも？



### 【散歩&自然観察のススメ44】ひげの太さに注目！

2020/06/15

魚沼は今の季節、ホタルを多数みることができます。夜光るホタルはヘイケボタルとゲンジボタルの2種ですが、光らないホタルもあります。その代表的なものがオバボタルです。

オバボタル（オオオバボタルというのもありますが、私には区別できません。）は、幼虫は光るのですが、成虫は光りません。そして、昼間飛んでいます。

昼間、ホタルが見られる場合はこのオバボタルであることが多いようです。オバボタルはヘイケボタルによく似ていますが、触覚が太いので区別できます。

ゲンジボタルやヘイケボタルは光を使ってオスとメスが出会うのですが、オバボタルはフェロモン（化学物質）を使います。ですのでフェロモンを感知しやすいように触覚が発達していると言われています。







## 【散歩&自然観察のススメ45】 食べられるのと食べられないのと

2020/06/20

魚野川とか公園近くの川を歩いているとクルミの木がよくみられます。食用になるクルミはオニグルミという種類です。それに対し、食用にならないものがサワグルミです。

サワグルミは実が尾状に垂れ下がるので知らないとクルミの仲間に見えませんが、名前の通り沢沿いに生育する木です。

河川の上流にサワグルミが生え、中流から下流にオニグルミが生えるというのが一般的なのですが、魚沼ではオニグルミとサワグルミが混じって生えていることがよくあります。

この写真は、大湯公園の中にある橋から撮影したのですが、ここでもオニグルミとサワグルミが隣り合って生えています。

ぜひ近所でどちらが生えているのか探してみてください。

## 散歩&自然観察のススメ

2020年度の春、新型コロナウイルス感染症対策のために公園にくることの自粛をもとめました。

『不要不急の外出は控え、自宅にしましょう。ただ閉じこもっていると健康に悪いので、自宅周りを散歩しましょう、ついでに自然観察でも』という企画をたて、身近な生き物を紹介する記事をfacebookに投稿しました。

ここに掲示したものはその投稿を編集して印刷したものです。実際の投稿には写真にいろいろと解説などがついています。

我々「むつみグループ」は、自然環境の保全、環境教育への協力に努めています。

生物や環境の情報は主にfacebookで紹介していますので、ぜひご覧ください。



奥レク facebook

新潟県立奥只見レクリエーション都市公園

指定管理者 むつみグループ

総括管理責任者 藤塚 治義

電話：025-780-4560



